

第13回 CIEC サタデーカフェ

開催概要

開催日:2022年6月18日(土)20:00~21:00

会場:Zoomによるオンライン開催

プログラム

20:00 - 20:15 【 話題提供 】

スピーカー:柴田直美氏 (日本女子大学附属高等学校)

テーマ:「情報科 新カリキュラムについて」

20:15 - 21:00 【 参加者とのフリーディスカッション 】



第13回 CIEC サタデーカフェは「情報科 新カリキュラムについて」をテーマに日本女子大学附属高等学校の柴田直美氏による話題提供となりました。日本女子大学附属高校では、「自ら考え、自ら学び、自ら行う」という教育理念のもと、日々の教育活動に取り組んでおられ、柴田氏は学校が情報化されていく中、それに関わり授業を運営しておられたようです。20年前に情報科が必修となったとき、学校として、学習者中心の授業にすることを重視し、主体的な活動を活性化する場や、学校内にとどまらず、より広い学習の場の提供を行うことを教員全体で確認するところからスタートしておられます。また、基本的な考えとして、情報科の授業を情報科の中だけで終わらせず、学校生活の中にある様々な学びの場と連携をし、教員同士の連携・協働の推進も活発に行っておられます。旧カリキュラムでは、1年生で情報科を1単位、情報連携授業を各学年で1単位、高校3年生で選択授業2単位の設定がありました。新カリキュラムでもそれらを踏襲しておられますが、3年生の選択授業に情報Ⅱが入っているので、早期に情報Ⅰを終わるようにしているようです。1年生では、情報リテラシーからプレゼンテーション、データの活用の基礎、プログラミング等をバランスよく行っておられます。また、情報連携授業では、各教科担当者からテーマを出してもらい、TeamTeaching の形で授業を進められています。データの活用、シミュレーション、モデル化、情報デザイン等を取り扱い、情報科で学んだことが他教科で発展的に生かされるようにカリキュラムを工夫しています。その中でも、特に力を入れておられるのが、データを読み取り分析する力を育てる授業、社会とのつながりを意識した授業です。例えば、地理に関するデータの可視化や、化学連携での凝固点降下の実験など、生の情報に関わる体験を重視しています。柴田氏は最後に、「情報科だけの授業では情報力は身につかない。様々な学びのチャンスをも有機的に結びつける必要があると考えている。情報科教員の果たすべき役割について今後も検討を続けたいと思っている。」と締めくくられました。

この後の参加者とのディスカッションでは、そもそも授業時間が足りているかとの質問が出され、新カリの情報Ⅰは教科書のボリュームも大きくなっているのに、それに苦心しているが、なんとかできていると回答されました。また、中学校との連携の質問については、なかなかできておらず今後の課題だということでした。また BI ツールの利用の質問については、今後取り入れたいと考えているという回答でした。さらに探究学習についての質問が出され、そういった取り組みは、総合学習の時代から活発であるが、情報科が前面に立っているわけではなく学校全体で取り組んでいるそうです。LMS などの活用も含め、本格的な高大連携につなげて行ければと話されました。

参加は11名と少なめではありましたが、大変中身の濃いサタデーカフェになりました。あちこちの参加者から、教員同士が授業の運営や授業内容など様々な点でしっかり交流できていることが、大変羨ましいという発言が目立ちました。柴田氏も、サステナブルにやっていくことを目指していて、打ち上げ花火になってはいけないと考えておられ、いろいろな人を訪ねてみたり聞き回してみたりしているとおっしゃられ、情報科がすべての教科教育の土台になっていることが大切であるという素晴らしいお話でした。今回の話題提供者である柴田氏を始め、ご参加頂いた方々にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。(文責:平田義隆)

